



貝塚中央病院

(平成27年9月10日訪問)
平均在院日数363.13日（平成26年8月31日時点）

積極的な取組など

隔離室にナースコールが設置されていた。

前回の訪問（平成22年2月）から改善されていたこと等

- 前回、2病棟と5病棟に面会室がなかったことについて、今回は全ての病棟に面会室ができていた。
- 前回テレホンカードは詰所に預けることになっているので、家族以外には電話をしにくい状況であったことに

病院全体について

人権擁護委員会・意見箱

人権擁護委員会は月1回の開催で、委員長は院長。意見箱は公衆電話の横にあり、投書は事務長が回収する。回答は病棟に掲示されていた。5月は92件の投書があったようだ。掲示されていた内容について患者に聞くと「サンドイッチが…（給食でのサンドイッチに関する感想）」とあるが、そんなの病棟で出たことない」と、首をかしげていた。

金銭管理

病院が管理する場合の管理料は1日100円。

精神保健福祉士

精神保健福祉士は6名。グループホームは病院から離れたところに2ヶ所、合計21名分ある。地域移行事業を利用しているという患者から話を聞くと「この病棟のツレとお菓子とか買に行くだけ」とのことだった。「明日退院と言われた。もう不満などない」と言う患者が4名いたが、退院に向けて何の準備もなされていないようだった。障害程度区分認定を受けている患者が15名、要介護認定を受けている患者が32名。

喫煙

一部の病棟では病棟内に喫煙場所があった。3病棟では喫煙時間が決まっていた。他の病棟では患者から「1日6本と決め

ついて、今回は詰所に預けている患者、自己管理をしている患者がいた。自己管理をしている患者は鍵付きロッカーの鍵を手首に付けていた。

- 前回、男女共用のトイレがあつたり、トイレの水洗が流れにくいところがあった。今回も改修等はなされていなかつた。近隣で下水工事が行われており、病院が貝塚市に問い合わせたところ、「病院が低い土地にあるため後回しにされていて時期などは未定」と言わわれているそうだ。

られている。自分でたばこを持てる人からもらいたばこするしかない。自分のたばこ、もっと吸いたい」との声があった。

病棟について

隔離室

全て使用中だった。隔離室前に貼られていた診療計画書の「推定される入院期間」にいくつかの期間の選択肢が印刷されていて、その選択肢が二重線で消されていた。患者一人一人に合った「推定される入院期間」を書き込むようにと保健所からの指摘があったためとのことだった。隔離室のナースコールの設置時期について、病棟でも訪問後の意見交換でも確認したが、はっきりとした設置時期が分からなかった。ここ1～2ヶ月以内のことのようだった。

入室している患者からは「入院中と外来の時の主治医が違う。外来の時の主治医がたまに覗きに来てくれる。ほっとする」「医師は毎日来てくれる。食事はベッドの上で膝の上に置いて食べる。食べにくい」との声があった。

病室

定員4名のベッドの部屋が中心だったが、一部、畳部屋もあった。ベッド横にはテレビやDVDプレーヤーの付いた床頭台、ベッド周りにはカーテンがあった。テレビカードを使ってテレビを見る患者もいるようだったが、テレビカードは詰所で預かっていて、1日に1枚渡される患者が多いようだった。多くの患者のテレビのあたりは埃をかぶっていた。テレビカードは1枚412円。

トイレ

扉が閉めにくい個室が数ヶ所あり、扉を開けたままトイレを使



用している患者が多くいた。8病棟の障害者用トイレでは、ナースコールはあるが、ナースコールだとは気付きにくく、押しにくい置き方だった。トイレ内やトイレの側にコイン式の洗濯機と乾燥機があった。

電話

詰所から離れた位置に設置されていた。

掲示物

全体的に少なかった。自販機の側面に献立表が貼ってあるなど、分かりにくい場所に掲示されていたり、字が薄くて読みづらく掲示物に何の掲示なのかを示すタイトルがないものもあった。例えばいきなり「食事の献立—朝食は前日の朝7:30」等と記載されており、下の段には「朝は7:30まで」と記載されていた。患者に聞いても「知らない」との答えばかりだったが、1名が「上の段は外出先で食べるときに食事の断りを入れる時間。下の段は分からん」と教えてくれた。職員に聞くと「下の段は、断った食事を復活することのできる時間制限」とのことだった。

1 病棟 開放 男女 56床 精神一般 15:1

年齢は20代～90代まで。入院して40年の患者もいる。内科治療の必要な患者も多くいるが、内科治療の医療設備が万全でないなかで対応していて、職員が1名でも休むと大変なようだった。33名中27名は病棟内の自動販売機で好きなものを買っている。15名は詰所前のノートに行き先等を記入して自由に買物等に出かけられる。外出できる時間帯は、8:45～16:45。個室には大きな酸素ボンベがベッドに寝ている患者の頭の方にセットされていた。詰所から出入りが出来る扉があった。訪問時、入室者はいなかった。

患者の声

「今は職員が掃除をしているが、以前は病院の窓ガラスを拭くなどの作業を自分達（患者）がしていた」「テレホンカードは自分で持っている」「入院して10年。主治医からは退院のことを言われている」「グループホームの利用体験をしている。グループホームでの泊数を延ばしていくことで退院できると言われている」

2 病棟 閉鎖 男性 58床 精神一般 15:1

隔離室には30分に1度は見廻りに行き、夜勤帯も隔離室担当者を決めている。この病棟では急性期症状の改善と社会復帰が目標のことだった。「退院支援委員会はこれまで5組（？）開催した」とのことだったが、話しがすれ違っていると感じた。後で分かったのだが、病棟責任者は別の人だった。金銭の自己管理は0名、外出できる患者15名。

自分のペースで廊下を歩いている患者、車椅子で廊下端にて

ひなたぼっこをしている患者、ベッド周りのカーテンを閉めてベッドで過ごす患者、デイルームの喫煙室にいる患者、全体的に静かだった。レクリエーションとして運動場でカラオケ大会をすることもあるようだった。私物は基本的には押し入れに収納し、希望者は倉庫で管理するようだった。201～203号室と5人部屋の和室4室は床頭台がなく、あわせて約30名の患者には私物を置くところがなかった。

患者の声

「たばこはセブンスター、営業の人が病棟に来る。月3,000円、金銭の管理費を取られる、痛い」「朝はご飯がいいと言ったが、毎日、お湯ぱっかりのおかゆとのりだけ。お腹が空いてしない。おかゆである理由は聞いていない」「お金は家族が出してくれている。ここでは小錢をもらう」「不満はない」「いつでも退院できるんやけど、退院を延ばしている」「ジュースの券が2枚やけどもっと増やして欲しい」「退院はしたくはない」「荷物は押し入れ、倉庫」「マンションで福祉の援助を受けて生活をしていた。訪問看護を受けていた」「薬は4～5錠。自分にあってるかどうかは、可も無く不可も無くというところ」「お金は事務所が管理。金銭の状況を教えて欲しい」「荷物は倉庫に入れてある」「入院して9ヶ月ぐらい」「入浴はシャワーで済ませる」「テレカは金がないので買えない。自分は赤字だから。西成から来たから」

3 病棟 閉鎖 女性 58床 精神一般 15:1

掲示板に貼られていた「退院後生活環境相談員」の説明が全て「×」で消されていた。相談室主任に確認したところ、「患者が消したんでしょう」とのこと、5分後には新しい案内に貼りかえられていた。デイルームには鍵付きロッカー（1日30円）が12個あった。患者によってノート、お菓子など様々なものを入れているようだった。10名以上の患者がOTから病棟に戻って来ると病棟が賑やかになった。

患者の声

「今日はOTに行ってきた。楽しかった」「OTプログラムがつまらない」「毎日ジュースカードでジュースを買うのが楽しみ」

5 病棟 閉鎖 男性 60床 精神一般 15:1

慢性期で症状が落ち着いた患者も多いが、入院の受け入れをする病棟。患者の言葉に耳を傾けて少しでも療養環境を良くしたいとのことだった。院外まで外出できる開放処遇の患者は28名だが、実際に外出しているのは4～5名。退院支援員と外に行く患者は何名かいる。

ポータブルトイレはどの部屋にもなかった。

患者の声



「数ヶ月前に1病棟からここに来た。他患とトラブルでここに来るよう言われた」「お金は社会福祉協議会の人が持つて来てくれる。朝、詰所の人が珈琲カードの108円を持って来てくれる。退院すると幻聴に酒を飲まされる」「10日に1回、病院の裏にある温泉で寿司を食べる。1回1万円使える」

6 病棟 閉鎖 男女 54床 精神療養

入院して10年から20年の30代から80代の患者が多くいる。金銭を自己管理している患者は7名。寝たきりにならないように、歩行訓練としてできるだけ歩いてもらっているとのことだった。

患者の声

「何も困っていない」「私は自分の歯があるのにおかゆ。白いご飯が食べたい」

8 病棟 閉鎖 女性 60床 精神療養

訪問時、詰所隣にある診察室で診察が行われていた。始まる前から患者が診察室前のベンチで並んで待ち始め、それらの患者が終わっても患者同士が声を掛け合って常時数名ずつ並んで待っていた。

患者の声

「今日は近くの美容院に行ってきた。身だしなみには気を付けています」

検討していただきたい事項

行動制限の告知について

隔離についての告知文書はどの部屋も隔離室の外側にセロハンテープでとめてあった。室内の患者に確認したが、書かれている内容については知らないようだった。また、3病棟では数日前まで入室していた他の患者の告知文書も職員用の通路に貼られたままになっていた。（病院：患者に指定医、医師より口頭・文書にて説明して実施しています。その上で患者の状態が落ち着いてから渡すようにしています。看護部と3病棟に指導しました。）

病気や薬、退院に向けた説明について

複数の病棟で患者から「主治医の診察は週1回。あまり話を聞いてもらえない」「治療計画書はもらっていない」「薬の説明はない」等の声があった。5病棟のある患者の隔離室前に貼られていた診療計画書の「推定される入院期間」が書き込まれていなかった。

ケースワーカーについて「いることは知っているが相談にのっ

てもらったことはない」、退院の相談ができるとは「知らなかった」との声が多く聞かれ、身近な存在ではないようだった。そして「ここからの退院は無理」「どうしたら退院できるのか」との声があつた。

(1) 診察室が詰所とつながっている病棟があり、「診察は詰所の中で囲いもない」「診察は詰所の中で。10分程度」との声があつた。（病院：完全に密室にはできないがカーテンで区切り、声が聴こえないよう配慮しています。）

(2) 入院中の患者に対して、病院側から、診察・面談・ミーティング等を通して積極的に情報を提供していくことを検討していただきたい。（病院：治療計画に基づて情報を提供していますが、情報を収集・評価し患者に理解していただけるよう関係職種が協力し支援に努めます。）

(3) 上記のことや退院の目処、現時点の目標を含む治療方針、治療計画、薬について、全ての患者にきちんと説明されているか、確認していただきたい。（病院：方針・計画については入院療養計画書にて医師より説明しています。診察時にも説明しています。薬について薬剤師が10月1ヶ月間114人に対する指導実績があり、診察時に医師よりも説明しています。）

職員の接遇について

前回と同様、今回も、患者から、職員は「優しい」という声がある一方で、下記のようなことがあり、前回から改善された印象を受けなかった。

1 病棟の患者の声「10年以上入院している。どこかが痛いと訴えても『自分でリハビリをしておきなさい』と言われるなど、こちらの訴えに対応してくれない。思うところはあっても我慢して、大人しくしているしかない」

3 病棟の患者の声「自分にはそんな対応はないが、病気か薬でふらふらしてしんどそうな若い患者が、いつも職員から『ちゃんとするように』とか、きつく叱られているのがなんともかわいそう。病気なのに」

5 病棟では、車椅子の患者がトイレ個室を使用していた時に職員とのやりとりが外に聞こえてきた。職員が「ここでやりなさい」「ここにしてください」「たれ流しやんか」と言っていて、服の上から背中を叩くような音が聞こえた。患者は「入れないよ」「ゆっくりできないわ～」と言っていた。

6 病棟の患者の声「入浴はちゃぶつと入ったら、すぐ上がる。10人ぐらいで入る。職員は、怒りっぽなしでゆっくりは入れない」

8 病棟の患者の声「職員から手伝えという意味で『助手をしろ』と言われる。それが嫌で仕方ない」

（病院：研修を重ね、さらなる努力を重ね、職員の基本的姿勢の改善を指導してまいります。）

ポータブルトイレの洗浄

6 病棟では「ポータブルトイレの中は職員は持って行ってザーっと流すだけ。中が黒くなっている」ポータブルトイレについて「私



は使ったらタワシで洗ってる」と言う患者がいたので中を見せてもらうと、清潔で匂いもなかった。

8 病棟ではエレベーター近くの廊下や病室では強い便臭がしていた。数名の患者に見せてもらったポータブルトイレの中は、尿とトイレットペーパーがたまたままであった。空の場合も尿がたまっていた時の跡のような線がついていたり、バケツの底付近は黒っぽい汚れがついていた。中身は捨てていてもバケツの中をこすって洗ってはいないのではないかと思うくらい汚れがついていた。患者によると「ポータブルトイレを使用してからもなかなか中を取り替えに来てくれない。言っても来てくれないあまり強くも頼めない」との声があった。訪問時もポータブルトイレを使用する患者はいたが、職員が取り替えている様子は見かけなかつた。職員によると、今日は入浴日だったので対応できていなかつたが、基本的にはポータブルトイレは朝昼夕の3回と適宜、職員が掃除することだった。

(病院：ポータブルトイレは洗浄していますが、汚れの強いバケツについては取り替えをしました(10月9日)。今後、同様の汚れの強いバケツが発生すれば、早期に取り替え、便臭が鼻・目で感じた時に、職員が掃除するように徹底を図ります。)

「外出したい」との声について

「外出したい」との声や、数年に渡って「外出していない」との声が、各病棟で複数聞かれた。「2~3年前は、よく外に連れて行ってくれる職員がいた。辞めたのか、もう見ない。一度に10着でも服が買えた。今は外に出られない」との声もあった。(病院：自身で外出できる患者以外で外出したいと感じられている患者に看護から働きかけ多くの患者が外出、出来るように努めています。10月18日・26日にも職員と外出されています。徐々に機会を持ちやすくするよう、働きかけを強めている最中です。)

金銭の自己管理について

金銭の自己管理は病院全体で数名のことだった。「売店でも現金で払わない」「売店の手前に階段があるから売店に行けない」「必要なものは詰所に言う」と言う患者もいた。畠部屋には床頭台はなく、ベッドの部屋でも床頭台のないベッドでは、患者は床頭台を使えない。(病院：病棟内の自動販売機、外出時、開放病棟の患者です。今後、患者が現金を使える場を広げ、生活力・能力を低下させることのないよう自己管理の方向に努めます。)

畠部屋について

畠部屋では布団の周りを囲むカーテン等もないため、部屋に入ると、布団の周りにある私物や、患者がどのように過ごしているのかを含め全てが見えた。また、患者ごとの床頭台もなく、布団の周りに時計や雑誌、洗面道具等が置かれていた。畠部屋の複数の患者から「ベッドの部屋の方が鍵付きの引き出しがあってよい」との声があった。畠部屋の患者の年齢層は、20

代から30代くらいから年配までと様々だった。(病院：20代から30代の患者は3名です。歩行不安定で転倒リスクのある患者や希望する患者が入室します。私物のおける物品の整備、患者に要望も聞き対処してまいります。)

薬の手渡し

「病室で渡される」「デイルームで渡される」どちらの声もあった。(病院：前回平成22年に訪問時にご意見を頂き、その後以降訪床与薬をしてきましたが、基本対応できる指示し徹底してまいります。一部食後にすぐ内服薬を希望される患者にも説明をして手渡してまいります。)

入浴について

入浴回数が週2回だった。複数の患者から「増やしてほしい」との声があった。(病院：週間スケジュールを考え出来るだけ患者の要望に沿える様に検討します。)

口腔ケアについて（5病棟）

患者から「歯ブラシも歯磨き粉もない」「歯が欠けてないので、歯ブラシは持っていない」「入れ歯は合わなくなってしまった前にいた病棟に置いてきた」「(畠部屋なので)歯ブラシの置き場がない」との声があった。職員によると入れ歯は原則自己管理とのことで、歯磨きを勧める等なされていないようだった。(病院：歯ブラシを持っていない患者に購入を促し、口腔ケアをしていただけるよう働きかけます。)

おたずね

- 衣服は「これは病院の服、今朝渡された」と言う患者が複数おり、新品のTシャツでした。費用負担はどのようになっているのでしょうか？(病院：私物をお持ちでない患者、指導させていただいてもできない患者には、衣類リースとして約定書において行っています。病棟内に一覧表を掲示させていただき、わからない患者には、看護から説明をしています。衣類リース(上・下)1日82円です。)

- 病院に預けている金銭の明細や残高を受け取っていない患者は何名いるのでしょうか？(病院：100名前後おられます。受け取ることができない理由としては、認知障害、寝たきりで意識が清明でない、手渡してもお断りされる患者です。)

精神保健福祉資料より（平成26.6.30時点）

364名の入院者のうち統合失調症群が209名(57%)、認知症等症状性を含む器質性精神障害が53名(15%)
気分障害が49名(13%)。入院形態は任意入院215名(59%)、医療保護入院147名(40%)、措置入院2名(0.5%)。在院期間は1年未満が118名(32%)、1年以上5年未満の患者が113名(31%)、5年以上10年未満の患者が47名(13%)、10年以上20年未満が50名(14%)、20年以上36名(10%)。



扉よひらけ⑦

大阪精神科病院事情ありのまま 2015

クリック

210ページのうち 192ページ ほどは 大阪府内の精神科病床のある全病院への訪問活動の報告です。

A4 サイズ / 210 ページ
2,000 円

目次

- ・大阪における精神科病院への訪問活動のうつりかわり
- ・療養環境サポーター制度について
- ・各病院の訪問報告
- ・各病院の職種別職員数一覧表
- ・精神科病院訪問ボランティアへのインタビュー
- ・入院中の精神障害者の権利に関する宣言

療養環境サポーター
最新報告

人権センターニュース毎号 2 病院掲載中

入会やご寄付のおねがい

私たちの財政的基盤の中心は「会費」や「寄付」となります。活動を維持し、充実させるためには、皆様からの支援が必要となります。



電話・面会相談では相談者の方からお金を頂いておらず、訪問活動（療養環境サポーター制度）でも大阪府等から委託費用の支払はありません。特に面会活動の拡充のためには、交通費（1回 2,000 円～4,000 円／2名分）や複数の事務局スタッフの人事費（年間約 500 万円）が必要となります。

会費・寄付の申込と支払方法

ご寄付もいつでも受付けています。

会員種別 年会費

障害者	1,000 円
個人	3,000 円
団体	5,000 円

特別協力会員 & 寄付
大募集

A	10,000 円
B	30,000 円
C	50,000 円

会員特典

人権センターニュースの送付

2か月に1回 年間6冊

人権センターニュースは、「声をきく」ことを重要な価値観とする私たちだからこそ発信できる情報が盛りだくさんです。また、病院訪問報告書も毎号2病院掲載しており、大阪府内の病院の療養環境の改善状況等をることができます。当事者・家族の皆様だけでなく、精神科病院に勤務する皆様や地域精神医療保健福祉にかかわる皆様にも必見です。



メルマガ配信 1か月に1回から2回

精神医療及び精神保健福祉にかかわる最新ニュースや私たちの講演会・セミナー情報等をいち早くお知らせします。

活動参加の方の情報提供

面会活動だけでなく、講演会の企画・運営や広報誌・SNSによる情報発信のサポート等いろいろな形で参加できます。

※面会活動は養成講座の受講が条件となります。

寄付特典



税額控除とは？

ご寄付をしても
税額控除を受け
られる場合、
確定申告によって
『税額控除』を受ける
ことができます。

*確定申告は最寄りの税務署に
ご相談ください。*大阪府（本市を除く）に在住
の方は、地方税のみ控除されます。*控除には限度額があり、実際の
税額はケースにより異なります。

10,000円のご寄付で、2～3名の面会が可能になります。

寄付金 1万円の時

所得税額 -3,200円

実質負担
6,800円

寄付金 5万円の時

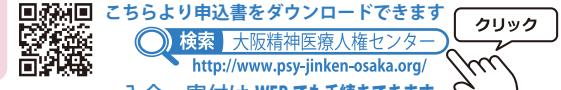
所得税額 -19,200円

実質負担
30,800円郵便払込 口座番号 00960-3-27152
加入者名 NPO 大阪精神医療人権センター

銀行振込 三井住友銀行 南森町支店 普通 1485805

現金 講演会会場・事務所にて

クレジットカード ウェブサイトのみ



こちらより申込書をダウンロードできます

検索 大阪精神医療人権センター

<http://www.psy-jinken-osaka.org/>

入会・寄付は WEB でも手続きできます。



認定 NPO 法人大阪精神医療人権センター

お問い合わせ

〒530-0047 大阪市北区西天満 5-9-5 谷山ビル 9F

TEL 06-6313-0056 FAX 06-6313-0058 メール advocacy@pearl.ocn.ne.jp